

机邊だより

倉橋惣三

○幼稚園の改良

(スタンレーホール氏)

第二、遊戯に就いて

フレーベルの著はしましたものに『ムツテル、ウ
ント、コーゼ、リール』と云ふ本があります。
此れは論文集とか又は小品集とか覽るべきもので
決して組織的な體系を備へた教育書ではありません
んが、幼兒の教育に注意する人々に取つては随分
大切なものであります。色々の事に就いて論じて
居るのではあります、其の中最も注意すべきも
のが三つある、其れは第一は感官の練習の必要を
説いたことで、第二は其の中でも筋覺若しくは運
動感覺の發達と云ふことが教育上に取つて至大の
關係あることを認めたことで、第三は遊戯と云ふ

手段に依つて知識的及び道德的の發達を計らうと
する象徴教育を唱へたことであります。以下之れ
に就いて少しお話致しませう。

ヘルバルトの教育説では統覺といふことが最も
重く説かれて居ると云ふことは、今日最早萬人の
承知して居る所で、新觀念と舊觀念の類化と云ふ
ことが教育の目的となつて居るのであります。或
る事物に就いて教授すると云ふことは、其の事物
に關する觀念を、兒童が既に持つて居る舊觀念中
に織り込ませて、二者を同化せしめると云ふこと
である、舊觀念が新觀念を類化すれば教授の目的
が達せられるのである、此の事は固より大切なこ
とではあります、然し茲に幼稚園に就いて研究
しようとする吾等が當然起すべき問題は、適當な
方法を以て授けられるならば、新觀念を類化し得
る丈の舊觀念を持つて居るものは其れで可い
であらうが、此の舊觀念を持つて居ないものには如
何したものであらうか、新らしいものを包攝して

段々自分の知識内容を豊富にして行くに、其の基礎根底がなくては出来ない、然るに此の根底の缺如せるもの、少くとも極めて貧弱なものにあつては如何なる方法を講じたならば可いのであらうか、此の問題になると、既に一定の階段まで發達したものの、教育を説いたヘルバルトからは、多く聞くことが出来ないであります。

此の點に關してフレーベルは、統覺の基礎として感覺の大切なことを説いたのであります、感覺を透して得た感覺が精神發達の基礎であるとして統覺と感覺とを各正當な位置に置いたのである。そして感覺の中でも別けて重要なものは筋覺又は運動感覺で、幼兒の精神が周圍の事物に對して始めて起こす反應は、自分の筋肉を動かして其れ等を模倣し、了解することであると云ふのであります。

一例を取つて申しますると、此處に青年と幼兒とが始めて熊を見たとき致します、此の時兩人の精

神中には此の熊に對してどういふ反應が起るであらうか、青年は既に此れまで色々な動物を見て居ります、或は熊の繪を見たこともありませう。又熊の形や大きさや性質などに就いて聞いたり讀んだりして、漠然ながらも大體の觀念を持つて居たであります、其れ故此れが熊であらうと云ふことも心付きませうし、又其れに似た他の動物を心の中に喚び起して、熊との異同點を考へるであります、然るに幼兒にあつては、此れまでに見た動物の種類も少なく、従つて熊などは見たことも聞いたこともないであります、だから今自分の前に表はれた熊と云ふ新しい動物を取入れるだけの精神的素地が無い、然らば如何にして此れを了解するかと申しますると、フレーベルの考に依ると、此れは熊の爲す所を眞似するのである、熊を見て直ちにすることもあらうし、又後に至つてすることもありませうが、熊の爲した所を其の儘模倣して自から之れを爲し、以て熊を了解する

のである。自分の神経や筋肉の上に同様な働をやつて見て、始めて熊を解し、又斯くして得たものが、後の精神發達の基礎となるのである。『幼兒は何事も模倣して之れを了解しやうと思ふ』とフレールは云つて居ります、一言に申しますれば、幼兒の統覺は神經と筋肉との作用であると云ふのであります。

或る珍らしい音がすると、青年が此れを了解する方法は、此れを他の音と比較對照して、かういふ音であるとか、又はかういふ音でないとか云ふので、之れに反して幼兒は其れと同様に音を自分の口から發して以て了解するのであります。

次にフレールの第三の主張であります所の象徴的遊戯の價値を明かに致さうと思ふ、象徴とか符號とか云ふものは、或る具體的事物を代表する抽象的概念を云ふのである。其れ故國旗は國民的統一の象徴であり、獅子は力の象徴であります。抽象的概念は餘程發達した精神の特産で幼兒

の精神中には明晰な象徴はないのであります。フ

レールの『ムツテル、ウント、コーゼ、リール』は前にも述べましたやうに断片的な小品集で、遊戯に關して論じて居ります所も、之れを組織的に構成して述べると云ふことは甚だ困難でありますが、遊戯の種類は大體之れを分つて道德的能力を養成するものと、智識的能力を養成するものと二種類になります、知識的遊戯は又之れを二種に分つて、第一は自分の精神生活を寫し出したもので、第二は國民、家族、州、教會などを寫し出したものである。此れ等の遊戯を説くに當つて、フレールが常に怠らず主張したことは、事物間の關係を甚だ重く觀て、此の關係を遊戯に依つて代表せしめねばならぬと云ふことであります、家庭と云ふものは個々の家族員が只雜然と集合したものではなく、家族員の關係を指すのである。幼兒をして知らしめなければならぬことは、父とか母とか云ふ一人々々ではなく、父と子との

關係とか、母と子との關係とか、又は家族員間の總ての關係であつて、従つて遊戯も此れ等の關係を現はして居る符號でなければならぬと云ふのである。國家に就いても又人類に就いても同様に此の關係が重要視せられて居るのであります。

私は曩きにフレーベルの恩物を論じました所で嚴密な論理の法則に従つて構成せられたものは幼兒が之れを了解することが出来ないといひました此の批評は今の遊戯の問題に就いても同様に妥當でありませぬ。フレーベルは自然現象や社會現象を解する上に一種の辨證法を以てして、そして此れを遊戯の上に適用し、遊戯を以て此れが符號として、幼兒の好むと好まないを顧みず、此れを強ひんとしたのであります。彼れの誤は要する所兒童の遊戯を解釋するに自分の哲學を以てした點に存するのである。抽象的概念は曩きにも述べたやうに幼兒の到底解釋し得る所ではない、遊戯は單に遊戯として之れを喜ぶのであつて、幼兒は

大人おとなの縮少しゆくせうしたものに過ぎないと考へて、其の中に深い自然しぜんの關係や社會關係しやくわいけんけいを讀ませやうと欲するのは無理である、幼兒の好まないものを無理に強ひれば其の結果は幼兒の自發性じはつせいを害します。家族的關係などは幼兒の決して解し得る所ではない、幼兒は自分の母を認めることは出来る、又母の愛も感ずることが出来る、然し其の關係を捕捉することは遙かに彼れの能力以上である。

一言に申しますれば、抽象的概念を教養することの必要なことは、之れは云ふまでもないことで、此れを主張することは吾人決してフレーベルの背後はいに落ちるものではない、然しながら三歳より六歳に至る幼兒が、抽象的概念を現はす象徴を要求するとか、又は漠然斯る概念を持つて居るとか云ふことは之れを承認することが出来ない、若し幼稚園の教師が斯る考を持つて居つたならば、其の害は恐るべきものであらうと思ふ。

次にフレーベルの遊戯論に就いて注意すべきこと

とは、彼れは傳承的の遊戯を過重視して、世の有様の變化や、周圍の事情の異なるに従つて、幼兒の精神狀態が異なり、其の結果として幼兒に適する遊戯も時と所とに依つて異ならねばならぬことを看破しなかつたことである。其れが爲め今はフレーベル主義を奉ずる幼稚園が遊戯の撰擇と排列に就いて少なからず誤つて居るのであります。幼兒の興味を持たない傳承的遊戯を強ふる結果は、單に其の遊戯に依つて折角養成しやうとした感情を養ひ得ないばかりではありません、彼等をして器械的になし、卑屈になし、奴隸的になさしめるのであります。遊戯の撰擇や排列をするに當つては大人の心を持つて之れをしては宜しくないのです。ります、出来るだけ兒童自身の心持になつて之れをしなければならぬ、此れに就いて注意すべきことは色々ありますが、先づ物の運動を認める力は非常に早く發達すると云ふことである。同一物の色や形を認めるよりも、其の物の運動を認める力

の方が遙かに早く發達するのである。出生後二十三日目に早や此の力が認められたと云ふ實例もありますが、多くの場合に於ては五週間目若しくは六週間目には既に認められるのであります。次に注意すべきことは、如何なる精神狀態も總べて其れが運動に變化する傾向を持つて居ると云ふことで、此れは現今の心理學者が等しく説く所であり、そして其の傾向が幼兒の精神に於いては特に強く働くのであります。周圍にある色々なものに就いて其の動く有様を最も早く、最も明かに認め、斯く得られた印象は同様な運動を又幼兒の身體上に起さしめるのであつて、幼兒の精神は總べて斯る模倣に依つて發達するのである。ポールドキン教授は、模倣的本能に依つて、人格と云ふ感じが兒童の精神中に起り、兼ねて又獨創及び自發の活動が表はれるのである、即ち意志の發達は模倣に依つて始めて可能であると云ふことを、彼れの『精神的發達』と云ふ本の中で説いて居ります

想像に於いても、幼児と大人との間には二つの著しい相違があつて、大人の想像は多く物の色や形や位置の上に働くのに反して、幼児の其れは運動の上に働らく、次に幼児の想像は其の印象が非常に強い、其の理由は、一は印象の数が少ないのと今一つは其れが直接に記憶表象と密接に關係して居るからであります。以上述べました所の幼児の諸の特徵を頭の中に置きながらフレイベルの遊戯の撰擇や排列を見ると不満足な所が甚だ多いのであります、今日幼稚園に關係して居られる方々は此れ等のことに就いて篤と熟考せらんとことを希望するのであります。模倣をするには先づ其の物を見たり聞いたりして接近することが必要で、従つて幼児の模倣するものは必ず彼等の周圍にあるものであります、然るに今日は幼児の見たいことも聞いたことをもないやうなものを材料として遊戯も行はれて居るのである、甚しきに至つては幼児のみか、教師自身すらも不案内のものを採つ

た遊戯があるのであります。フレイベルは熱心な幼児教育者で、其の主張には幾多採るべき所があり、又其の根本精神は誠に天晴な麗はしいものではあります、彼れの説いた所が、何時までも、又如何なる世界にも正しいとは云はれますまい。徒らに其の教説を墨守するよりも、學術の發達と實驗の教ふる所に従つて益々其の改良進歩を計る方が却つてフレイベルの根本精神に忠なるものであると思ふのであります。(つづく)

お園子屋とお砂糖屋

花子 君子さんお園子屋をして遊びませう。御覽なさい、こんな大きなお園子よ。

母 花子、何ですれ、泥悪戯なにかして、オヤオヤ、着物も前懸もこんなに泥だらけにして。

君子 花子さんお砂糖屋ごっこをして遊びませうか。私こんな大きな瓦や煉瓦のかけを見付けて来てよ。

母 君子、御覽なさい、折角母機が片付けた處をこんなに散らかして、いまにお父様が御歸りになると叱かられますよ。